

2022年12月16日

日本ジオパーク再認定審査結果

日本ジオパーク委員会

日本ジオパーク委員会は、10月から11月に現地調査を行った5地域の日本ジオパーク再認定の可否について審議し、以下のとおり決定した。

日本ジオパーク再認定：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク、白滝ジオパーク
八峰白神ジオパーク、苗場山麓ジオパーク、萩ジオパーク

現在、日本ジオパークは46地域である（うちユネスコ世界ジオパークは9地域）。

日本ジオパーク再認定

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク

2020年の条件付き再認定後に、関係者間で対話を続け、ジオパーク活動の継続を決定した。分杭峠サイトの解説板や宣伝内容を科学的なものに改善した。また、大西山崩壊礫保存園の防災教育への活用が図られるなど前進が見られた。このように、関係者間の十分な議論を経て、方向性を自ら定めてきていることから、活動の活性化と発展が期待される。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定とする。

白滝ジオパーク

2020年の条件付き再認定後に、地域住民や民間活動団体を事務局構成員に加えたことで、事業計画の推進やジオサイトの整備・保全を進めることができた。また、エリア内の農家や事業者とともにジオツアーやイベントを実施し、ジオパークの協力者を増やしている。2023年の国際黒曜石会議の開催を契機として、ジオパークの価値の発信と可視性の向上につなげてほしい。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定とする。

八峰白神ジオパーク

4年前の審査での指摘については、ほぼ解決に向けて着手されているか解決済みである。ガイド活動、地域住民の参加、小学校との連携も順調に進んでいる。

今後は、事務局運営と人材確保の安定化を図り、地質図の活用、ネットワークへの貢献など、積極的に活動していくことを期待する。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

苗場山麓ジオパーク

この4年間、住民参加の教育事業を核とした地域づくりに取り組んできた。その結果、ジオパーク活動に参加する地域住民や事業者が増えた。今後、基本計画を策定し、拠点施設の整備やジオツーリズムのさらなる展開により、地域の持続可能な発展をめざしてほしい。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

萩ジオパーク

この4年間、学校や地域において、多様な講座や工夫を凝らしたオンラインや現地のツアーを実施し、大地や生態系と人の暮らしのつながりを伝えてきた。その結果、ジオパークの考え方に共感してガイドやパートナーとなって活動する人が少しずつ増えてきている。今後は、多くの観光客や修学旅行生にもジオパークの楽しみを提供できるような体制の拡充に期待したい。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

以上